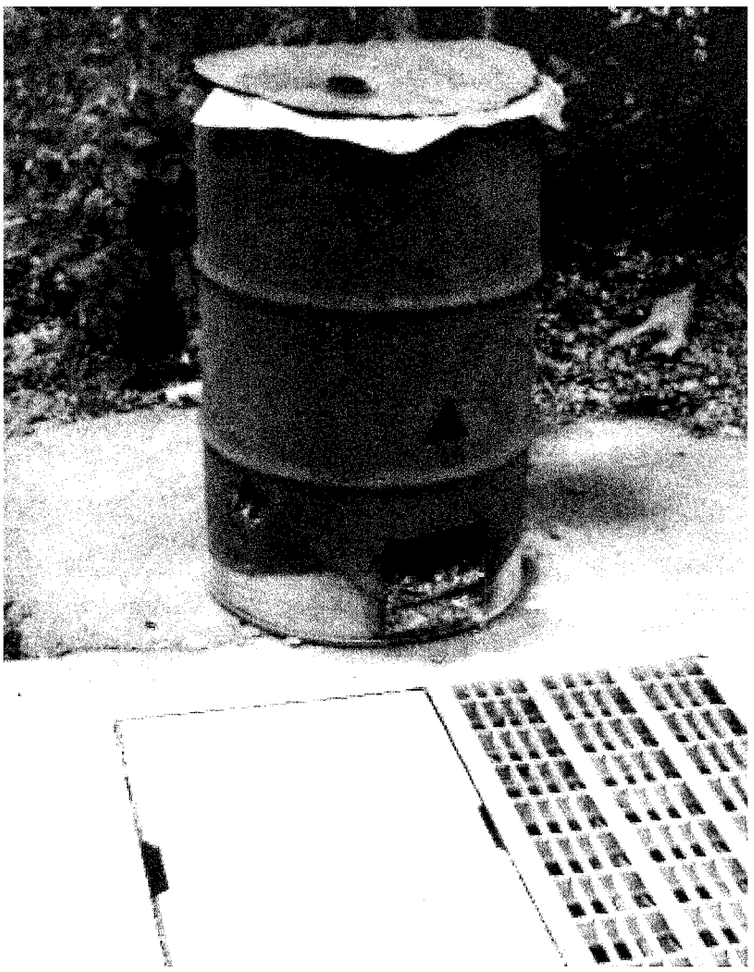
地球規模で確実に進んでいる環境汚染は、行政と企業・住民の皆さんとが手を携え早急に取り組まなければならない重要な課題です。その中でも、焼却することによって発生するダイオキシンは環境汚染の中でも深刻で、今やこの存在自体を知らない人はいないでしょう。

最近では、所沢市がこの問題に直面し対応に追われています。私たちも「ひとごとだ」とか「都留は自然環境がいいから大丈夫」などとのんびり構えていては、取り返しのつかない事態を招く恐れがあります。決してひとごとなんかではありません。子孫にまで影響を与えるようなことになる前に、その対策を講じていかなければなりません。

ダイオキシン問題は、みんなで取り組んでこそ効果があるのです。



みんなの手で守ろう命救おう地球

小型焼却炉から出るダイオキシンの影響

小型焼却炉を使い燃やすときの環境影響には、大気汚染、悪臭、焼却灰処理、水質汚濁などがありますが、中でもダイオキシンが大きな問題として取り上げられていることは、新聞紙上などでご存じのことでしょう。既に都留市では、学校や公共施設でのごみ焼却を廃止し、家庭用小型簡易焼却炉などの使用自粛を広報を通じお願いをしてきました。

しかし、当然それだけでは十分とはいえません。そこで、市内の家庭用小型焼却炉はどのくらいあるのかを把握する必要があるため、環境美化協力員の皆さんにご協力願い、昨年十二月に「ごみ焼却調査」を実施していただきました。その結果（表1）を踏まえ、今後の環境対策の指針づくりに役立てていきたいと考えています。

また、ダイオキシンの環境への影響については、平成九年二月に世界保健機構（WHO）において発がん性があると規定されました。ダイオキシンは、空気、水、土、食品から摂取されたり、母乳からも摂取されることがわかっています。最近、男性では精子数の減少、前立腺がん、女性では子宮内膜症、不妊などの外因性内分泌撹乱化学物質（環境ホルモン）との因果関係が疑われています。

ダイオキシンの生成については、焼却温度が三百度から五百度でプラスチック類の塩化ビニールを燃やすと化学反応により生成されます。ドラム缶やブロック積みの焼却炉でもダイオキシンが発生しますので、高温度の焼却炉で安定した焼却をする必要があります。

また、焼却炉を使わないドラム缶などでの焼却は「野焼き」にあたり、焼却することはできませんのでご注意ください。